

アルゼンチン

Argentine Republic

	2006年	2007年	2008年	
①人口：3,975万人（2008年推計値）	④実質 GDP成長率（％）	8.5	8.7	7.0
②面積：279万 1,810km ²	⑤貿易収支（米ドル）	123億 9,300万	110億 7,200万	131億 7,600万
③1人当たり GDP：8,214米ドル （2008年）	⑥経常収支（米ドル）	77億 900万	71億 300万	75億 8,800万
	⑦外貨準備高（米ドル）	309億 300万	446億 8,200万	448億 5,500万
	⑧対外債務残高（米ドル）	1,093億 3,800万	1,231億 9,700万	145億 9,750万
	⑨為替レート（1米ドルにつき, アルゼンチン・ペソ, 期末値）	3.04	3.13	3.43
【出所】 ①②：アルゼンチン国家統計・センサス局（INDEC）、③⑦⑨：IMF、④～⑥⑧：経済生産省				

【出所】①②：アルゼンチン国家統計・センサス局（INDEC）、③⑦⑨：IMF、④～⑥⑧：経済生産省

2008年のアルゼンチンの実質GDP成長率は、前年を1.7ポイント下回る7.0%にとどまったものの、6年連続のプラス成長を達成した。2008年の輸出額は前年比26.5%増の705億8,900万ドル、輸入額は28.4%増の574億1,300万ドルであった。その結果、貿易収支は19.0%増の131億7,600万ドルと黒字幅は増加している。しかし、未解決の対外債務問題や輸出税をめぐる農業部門との対立、大統領支持率の低下もあり、経済は楽観できない状況にある。

農業団体との対立に終始した1年

世界同時経済不況の影響による年末の経済の失速にもかかわらず、2008年にアルゼンチンは7.0%の実質GDP成長率を達成した。このプラス成長は、サービス業や自動車を中心とした製造業による年前半の好調が下支えしたもののだが、農牧産業では、輸出税をめぐる政府と農業団体との対立が続いている上、さらに干ばつ被害も加わり成長率はマイナス1.6%となっている。なお、2008年9月に発表した国家予算案では、2009年から2011年にかけての目標成長率をそれぞれ4.0%、3.6%、3.6%と掲げている。また、2009年第1四半期の実質GDP成長率について、国家統計・センサス局（INDEC）は2.7%としている。

2008年は、アルゼンチン経済にとって農業団体との対立に終始した年といっても過言ではない。3月の穀類輸出税の引き上げ法案に端を発した同対立は、農業団体による全国でのデモ活動や、出荷拒否などによる社会不安を引き起こした。同年7月の上院議会における輸出税引き上げ法案否決により、混乱は一時的に落ち着いたようにみえたが、農業団体は既存の穀物輸出税率（25～35%）のさらなる引き下げを要求し、2009年5月現在も対立は続いている。法案否決後、農業団体との交渉に当たっていたアルベルト・フェルナンデス首相（当時）は、事態を重くみて辞任した。フェルナンデス大統領は、2008年9月に起死回生を狙ってパリクラブ債務返済やホールドアウト債権者問題再交渉などを立て続けに発表した。その後の米国発金融危機発生で凍結状態にある。また、2008年12月以降は民間年金基金（AFJP）の国有化、国

内産業と雇用の保護を目的とした輸入ライセンスの非自動化制度の導入などを実施。政治・経済両面で混乱を招いたため、フェルナンデス大統領の支持率は、就任時の51%から2009年5月には25%まで大幅に低下した（民間調査会社ポリアルキア調査）。カントリーリスク指数（JPモルガンのEMBI+指数）も、2007年12月10日の就任時には356ポイントであったが、1年後の2008年12月10日には1,855ポイントに上昇している。政府は今後のさらなる経済状況の悪化を危惧し、2009年10月に予定されていた議会中間選挙を6月に前倒ししたが、政策運営への不安は払しょくされていない。

穀物輸出額46.3%増で貿易収支黒字額増

INDECが発表した2008年のアルゼンチンの輸出総額は、2007年伸び率20.4%を上回る、前年比26.5%増の705億8,900万ドルに上った。一方、輸入総額は2007年に記録した伸び率（31.1%増）には届かなかったものの、28.4%増の574億1,300万ドルであった。その結果、2008年の貿易収支は、19.0%増の131億7,600万ドルと黒字幅を増やした。

2007年に引続き、輸出の牽引役は穀物を中心とした一次産品である。2008年の穀物輸出額（FOB）は、年前半に高い水準で推移した国際価格の影響で前年比46.3%増の68億1,700万ドルを記録している。主な品目をみると、トウモロコシが56.9%増の34億3,500万ドルで、イラン、スペイン、アルジェリア、エジプト、ペルー向けが伸びた。また、小麦は27.2%増の25億6,400万ドルで、南アフリカ共和国、パキスタン、ブラジル、ペルー向けが増加した。同様に、食品産業残留物分野も78億6,800万ドル

と27.0%増加。これは大豆粉・大豆ペレットが25.2%増の71億8,900万ドルと大半を占めている。なお、主な輸

表1 アルゼンチンの主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位: 100万ドル, %)

	2007年	2008年		
	金額	金額	構成比	伸び率
輸 出 総 額 (FOB)	55,780	70,589	100.0	26.5
一 次 産 品	12,352	16,425	23.3	33.0
穀 物	4,660	6,817	9.7	46.3
油 糧 種 子	3,696	4,926	7.0	33.3
農 畜 産 物 加 工 品	19,188	24,050	34.1	25.3
食 品 産 業 残 留 物	6,196	7,868	11.1	27.0
植 物 油 脂	5,493	7,098	10.1	29.2
工 業 製 品	17,321	22,209	31.5	28.2
輸 送 機 器	5,317	6,577	9.3	23.7
化 学 製 品	2,937	4,347	6.2	48.0
金 属 製 品	2,816	3,472	4.9	23.3
機 械 ・ 電 気	1,975	2,441	3.5	23.6
燃 料 ・ エ ネ ル ギ ー	6,919	7,905	11.2	14.2
原 油	1,296	1,624	2.3	25.3
輸 入 総 額 (CIF)	44,707	57,413	100.0	28.4
自 動 車	6,956	9,368	16.3	34.7
機 械 ・ 機 器	7,508	9,069	15.8	20.8
電 気 機 器	5,831	6,526	11.4	11.9
鉱 物 性 燃 料	2,692	4,120	7.2	53.1
有 機 化 学 品	2,258	3,114	5.4	37.9
鉄 鋼 製 品	2,008	2,826	4.9	40.7
プ ラ ス チ ッ ク	2,051	2,226	3.9	8.5
医 薬 品	939	1,141	2.0	21.5
光 学 ・ 測 定 機 器	919	1,090	1.9	18.6
ゴ ム ・ 同 製 品	889	1,078	1.9	21.2
化 学 工 業 製 品	879	1,050	1.8	19.4
紙 ・ 段 ボ ー ル	835	975	1.7	16.8
そ の 他	10,944	14,831	25.8	35.5

〔注〕表2とも、2007年は暫定値、2008年は推定値。

〔出所〕表2とも、国家統計・センサス局 (INDEC) の2009年1月29日付け "Intercambio Comercial Argentino"。

表2 アルゼンチンの主要国・地域別輸出入 <通関ベース>

(単位: 100万ドル, %)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)			
	2007年	2008年			2007年	2008年		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
南米南部共同市場 (メルコスール)	12,470	16,280	23.1	30.6	16,184	20,289	35.3	25.4
チ リ	4,176	4,734	6.7	13.4	708	952	1.7	34.5
ラテンアメリカ統合連合 (ALADI)	3,619	4,713	6.7	30.2	565	590	1.0	4.4
N A F T A	6,126	7,372	10.4	20.3	6,981	8,936	15.6	28.0
E U 27	9,838	13,234	18.7	34.5	7,445	9,013	15.7	21.1
A S E A N	2,126	2,258	3.2	6.2	1,234	1,445	2.5	17.1
中国 (香港・マカオ含む)	5,359	6,607	9.4	23.3	5,127	7,144	12.4	39.3
韓 国	675	621	0.9	△8.0	526	732	1.3	39.2
日 本	666	550	0.8	△17.4	1,200	1,378	2.4	14.8
イ ン ド	859	836	1.2	△2.7	384	492	0.9	28.1
中 東	1,514	2,633	3.7	73.9	215	202	0.4	△6.0
マグレブ諸国およびエジプト	1,995	3,018	4.3	51.3	133	260	0.5	95.5
そ の 他	6,357	7,733	11.0	21.6	4,005	5,980	10.4	49.3
合 計	55,780	70,589	100.0	26.5	44,707	57,413	100.0	28.4

〔注〕国・地域のくくりは原典のとおりとした。

マグレブ諸国: チュニジア, アルジェリア, モロッコ。

メルコスール: ブラジル, パラグアイ, ウルグアイ。

ALADI: ボリビア, コロンビア, キューバ, エクアドル, ペルー, ベネズエラ。

出先は上位から順に、オランダ、スペイン、イタリア、デンマーク、ポーランド、フィンランド、インドネシアとなっている。工業製品分野では、輸送機器が前年比23.7%増の65億7,700万ドルを記録し、そのうち乗用車は31.6%増の28億6,500万ドルを占めた。また、バイオ燃料 (大豆油からのバイオディーゼル) は、前年の6.3倍の8億5,700万ドルで主に米国向けの輸出が増加した。

輸入面では中間資本財が前年比31.6%増の202億2,700万ドルを記録したほか、輸送機器分野では乗用車が38億7,500万ドルで43.0%増加。また、近年のエネルギー供給不足問題を反映して、鉱物性燃料が53.1%増の41億2,000万ドルを記録している。特に天然ガスの可採年数は近年劇的に減少している (2001年の15.9年から2007年で8.7年) にもかかわらず、ガス消費はここ5年間で34.4% (2007年, 「BP Statistical Review 2008」) 増加しており、政府は輸出の制限や計画停電措置に加えて、ボリビアやトリニダードトバゴからの輸入に依存している状況である。特に2008年はボリビアからの天然ガス輸入が輸出国側の供給能力の問題で制限され (前年比44.9%減の7,700万ドル)、トリニダードトバゴより液化石油ガス (LPG) を輸入している。しかし国内にLPGの再ガス化設備がないため、同設備を有する大型船舶 (エクセルシオン) をチャーターせねばならず、輸入コストは増加している。

地域別では、例年に引き続き南米南部共同市場 (メルコスール) の比重が大きく、輸出シェア23.1% (162億8,000万ドル)、輸入シェア35.3% (202億8,900万ドル) となっている。特に前年に続き最大の取引相手国であるブラジル向けの輸出 (FOB) は前年比27.6%増の133億7,800万ドルを記録し、輸入は22.6%増の179億7,900万ドルで

あった。ブラジル向け輸出は上位から順に乗用車(42.8%増、23億9,700万ドル)、石油(原油除く)・同調製品(8.4%増、14億400万ドル)、小麦(6.7%増、12億1,200万ドル)となっている。特に乗用車はブラジル市場の好調の波に乗り大きく増加した。一方、ブラジルからの輸

入品目でも、乗用車が35.5%増の26億1,200万ドルとトップとなっている。

なお、2008年11月以降の貿易額は、米国発金融危機の影響から輸出入ともに前年同月比でマイナスを記録している。2009年第1四半期においても、輸出は前年同期比26.0%減の118億6,300万ドル、輸入は35.3%減の83億700万ドルと落ち込んでいる。しかし貿易黒字は11.7%増の35億5,600万ドルと増加した。

■米国、ブラジルからの投資は減少

INDECによれば、2008年の国際収支上の海外からの直接投資受け入れ額は、前年比23.3%増の79億7,900万ドルであった。前年の16.9%増に続き高い増加率を維持している。なお、同統計では国別・業種別の詳細が発表されていないため、政府系機関である生産研究センター(CEP)の資料で投資の詳細をみる。CEPによれば、2008年のアルゼンチンの対内直接投資額(企業による投資発表を基に同センターが集計したもので、アルゼンチン企業による投資を含む)は、前年比4.3%増の192億5,600万ドル(うち、アルゼンチン企業の投資は22.1%増の80億6,400万ドル)に上った。最大の投資国はスペインで27.8%増の34億5,700万ドルを記録した。その一方、2位の米国は27.5%減(15億800万ドル)、3位のブラジルは29.0%減(12億3,600万ドル)と、ともに減少している。

業種別にみると、バイオ燃料が前年比127.5%増の4億400万ドルと大幅増を記録した。アルゼンチン代替エネルギー会議所によると、2008年のアルゼンチンのバイオ燃料生産は、当初予想の120万トンには及ばなかったものの、107万トンを達成した。同会議所は、生産量が予想を下回ったことについて、コモディティー価格の下落と、主要輸出先である欧州市場で大豆油由来のバイオディーゼルの温室効果ガス削減評価が域内規定を下回ったことを挙げている。また、鉱業における投資額も92.0%増の8億4,500万ドルとなった。アルゼンチン連邦鉱業庁は、2015年までの鉱業プロジェクト計画として、385億ドルの投資を見込んでいる。そのほかにも、石油・ガスが6.2%増(37億9,100万ドル)、建設・その資材が41.9%増(24億1,000万ドル)、自動車は87.0%増(6億5,600万ドル)と投資額が増加している。

■対日輸出は2005年以来の減少に転じる

2008年のアルゼンチンの貿易額に占める日本のシェアは、輸出0.8%、輸入2.4%と、いずれも前年実績を下回った。特にこれまで増加を続けた対日輸出は、2008年に前年比17.4%減の5億5,000万ドルと2005年以来の減少となった。銅鉱が63.5%減、トウモロコシ(飼料用)が

表3 アルゼンチンの業種別対内直接投資
＜申告ベース、フロー＞

(単位: 100万ドル, %)

	2007年	2008年		2003～08年末 時点投資残高
	金 額	金 額	伸び率	
石 油 ・ ガ ス	3,572	3,791	19.7	20,583
バ イ オ 燃 料	177	404	2.1	634
鉱 業	440	845	4.4	3,530
製 造 業	5,720	5,858	30.4	26,686
食品・飲料・たばこ	1,198	1,094	5.7	7,240
織 維	178	10	0.0	385
紙	140	96	0.5	412
化学・プラスチック	461	405	2.1	2,841
建設・その資材	1,698	2,410	12.5	7,622
金 属	1,284	847	4.4	4,166
機 械 ・ 機 器	112	111	0.6	531
自 動 車	351	656	3.4	2,326
そ の 他	298	230	1.2	1,164
電気・ガス・水道	2,264	2,578	13.4	7,792
商 業	1,845	1,551	8.0	5,494
運 輸 ・ 通 信	2,289	1,896	9.8	12,179
銀 行	340	52	0.3	2,048
そ の 他	1,810	2,282	11.8	7,770
合 計	18,456	19,256	100.0	86,715

〔注〕表4とも、2008年は暫定値。アルゼンチン企業による投資を含む。

〔出所〕表4とも、生産研究センター(CEP)統計。

表4 アルゼンチンの国・地域別対内直接投資
＜申告ベース、フロー＞

(単位: 100万ドル, %)

	2007年	2008年		2003～08年末 時点投資残高
	金 額	金 額	伸び率	
欧 州	5,139	6,021	31.3	26,389
ス ペ イ ン	2,706	3,457	18.0	14,148
英 国	999	418	2.2	4,146
イ タ リ ア	593	399	2.1	2,094
フ ラ ン ス	338	368	1.9	2,147
オ ラ ン ダ	74	350	1.8	658
ド イ ツ	138	302	1.6	1,225
そ の 他	292	727	3.8	1,971
北 米	3,189	2,867	14.9	18,646
米 国	2,080	1,508	7.8	12,860
そ の 他	1,109	1,359	7.1	5,786
中米・カリブ	0	0	0.0	8
南 米	2,177	1,783	9.3	9,973
ブ ラ ジ ル	1,742	1,236	6.4	7,238
チ リ	381	408	2.1	2,128
そ の 他	53	139	0.7	608
日 本	69	102	0.5	494
中 国	261	240	1.2	979
そ の 他*	7,622	8,243	42.8	30,227
合 計	18,456	19,256	100.0	86,715

〔注〕* アルゼンチン企業による投資(2007年は66億600万ドル、2008年は80億6,400万ドル)を含む。

表5 アルゼンチンの対日主要品目別輸出入 <通関ベース>

(単位: 100万ドル, %)

輸 出 (FOB)					輸 入 (CIF)				
	2007年	2008年				2007年	2008年		
	金 額	金 額	構成比	伸び率		金 額	金 額	構成比	伸び率
アルミニウム・同製品	78	136	24.7	73.3	乗 用 車	106	166	12.0	56.4
銅 鋳 造 品	267	98	17.7	△63.5	自 動 車 部 品	159	162	11.8	2.2
魚 フ ィ レ 類	21	48	8.7	124.0	印 刷 機	58	69	5.0	19.3
果実・野菜ジュース	20	28	5.1	43.0	エ ン ジ ン	57	57	4.1	△0.3
甲 殻 類	7	22	4.0	221.9	フォークリフトトラック	44	56	4.1	26.8
ワインおよびブドウ搾汁	15	22	3.9	44.1	エーテル、エーテルアルコール	35	44	3.2	27.2
トウモロコシ(飼料用)	55	20	3.6	△63.6	医 薬 品	41	41	3.0	0.7
ポ リ ア ミ ド	7	15	2.7	124.0	スパークイグニッション	29	38	2.8	29.3
チ ー ズ	27	12	2.3	△53.3	オ ー ト バ イ	18	32	2.3	79.3
ヒマワリ油・サフラワー油・綿実油	12	9	1.7	△21.8	新 品 ゴ ム 製 タ イ ヤ	24	30	2.2	27.4
グ レ ー ン ソ ル ガ ム	48	9	1.6	△81.6	ア ク リ ル 重 合 体	25	27	2.0	7.8
天 然 は ち み つ	2	9	1.6	281.9	タ ー ボ ジ ェ ッ ト	15	26	1.9	72.7
牛・馬のなめし皮	6	8	1.4	27.6	ブ ル ド ー ザ ー	52	23	1.6	△56.4
そ の 他	101	115	20.9	13.9	そ の 他	539	608	44.1	12.9
合 計*	666	550	100.0	△17.4	合 計	1,200	1,378	100.0	14.8

[注] * 合計値はINDECの2009年1月29日付け“Intercambio Comercial Argentino”のオリジナルデータを採用。「その他」で数値調整。
 ワールド・トレード・アトラスの2009年5月現在の合計値は、輸出が5億500万ドル、輸入は上記と一致。なお、INDECがウェブサイトで公表する資料には対日貿易品目の詳細が明記されていないため、ワールド・トレード・アトラスの統計を採用した。
 [出所] ワールド・トレード・アトラス、2009年5月現在（同社のデータ出所はINDEC）。

63.6%減となるなど主要品目での減少が響いた。ただし個別の品目をみると、伸び率が高いものも目立つ。例えば甲殻類は3.2倍（2,200万ドル）、魚フィレ類は2.2倍（4,800万ドル）となった。

一方、対日輸入は前年比14.8%増の13億7,800万ドルを記録した。個別品目をみると、2008年前半の経済好調を反映して、乗用車輸入が56.4%増の1億6,600万ドル、オートバイも79.3%増の3,200万ドルを記録した。アルゼンチン自動車代理店連合会（ACARA）によると、2008年の国内自動車販売における輸入車の比率は59%で、輸入相手国はブラジルが80.9%、次いでメキシコが8.0%、EUが4.8%、韓国3.3%、日本2.1%となっている。

アルゼンチン自動車工業会（ADEFA）によると、国内卸売販売台数は、2008年11月以降、前年同月比で減少に転じているが、通年では前年比8.3%増の61万1,770台と過去最高を記録した。その中で現地生産を行っているトヨタ・アルヘンティーナは、生産台数こそは前年を下回ったものの、2008年の輸入車を含む国内代理店への卸売販売台数は、13.5%増の3万1,837台を記録している。また、2009年1～3月期では、前年同期比10.3%増の6,756台と、国内生産メーカーでは唯一の販売増を記録した。オートバイ販売に関してACARAの統計をみると、ホンダモトール・デ・アルヘンティーナ（HAR）が前年比21.8%増の8万9,424台（シェア18.5%）で首位に立っている。2008年より現地生産を開始したヤマハ・モトール・アルヘンティーナも160.1%増の3万8,127台（7.9%）で上位6位に入っている。

■情報通信分野などで日本企業の投資増

CEPによると、2008年の日本からの投資は、前年比48.4%増の1億200万ドルで、産業別では、自動車および同部品産業が14.9%減の4,700万ドル、情報通信産業が全額増の2,200万ドル、商業が全額増の1,300万ドル、タイヤ製品が前年同額の1,100万ドルとなっている。特に2008年は古河電気工業が、スペインのテレフォニカによる新規事業に対して、インフラ面でのサポートを目的に、ブエノスアイレス州南部のベラサテギ市に光ケーブル工場を設立している。なお、同社では国内需要にとどまらずメルコスール地域への輸出も念頭に置いているという。

その一方、米国発金融危機の影響で、多くの国内外資企業が新規投資計画の凍結を余儀なくされており、日系メーカーの中でも、新規拡張計画を2009年以降に延期する動きもみられる。

フェルナンデス大統領は2008年12月、生産省を経済生産省より分離し、元ブエノスアイレス州政府の生産局長を務めたデボラ・ジョルジ氏を生産相に任命した。同相は、国内経済の活性化を図るため、各種公共事業や販売促進のための低利融資制度を発表する一方、国内産業と雇用の保護を名目に輸入制度の改正による非関税障壁を次々に発表し、通関における混乱を来した。そのため同相の政策に対し産業界には賛否両論がある。